

まっとうな国

自国の領土領海領空を侵犯されながら、相手の恫喝に慌てふためいて世界中から侮蔑をうけながらひたすら土下座外交を続ける民社党政権に、さすがにノーマルな日本国民も大多数が怒りをぶちまけた。国が滅んでしまったら経済も何も無い。小生が当初から言ってきたように「国防」を考えることなく、みんな仲良く話し合ひできめましょう、というのは小学生の発想で、それを醸し出してきたのも日教組である。日教組は民社党べったりで、「清き一票」を教え込みながら、自らは組合の指示通り少々の法律破りなど平気なもの・・・こんな連中に子供の教育をまかせるのも不本意だし、「嘘」を教えるわ、自分は言行不一致の最たるものだわ・・・**真っ当な独立国ではないよネ。**

原油価格の高騰で、ガソリンの値段がリッター110～120 円くらいのものが 170～180 円に達した。みんな大慌てで、クルマを売りとばすものや、車に乗らないようにしたため、道路の渋滞が一時的に緩和され、走りやすくなった。ところがしばらくしてガソリン代が 5 円安くなったら、TV で若い男が「この時を待っていました」

とまたクルマに乗るようになったと言った。……こいつアホか?!
用もないのに車でうろちょろするな!

元の価格からみればまだ高いことに気づかないのだろうか? 昭和 48 年のオイルショックのとき、オイル屋の社長が「千載一遇の大もうけのチャンス」と言って顰蹙を買った。日本人の、記憶力の悪さ知的レベルの低下には呆れるばかりであるが、ガソリンスタンドの数が極端に減少しているのは儲からないからで、原価を割ってまで売れというのは「自分さえ良ければ・・」という考え方で、日本古来からの共存共栄について考えたこともない連中なのであろう。責任は回避し他人のせいにしたがるのが増えて、いったいこの国はどのような方向に向かっているのだろうか? 先の若い男のようなのばかりになったら、遠からずこの国は滅亡するだろう。

話は突然変わるが、小生ビッグコミックをゴルゴ 13 が始まった頃から愛読している。もう 40 年にもなるだろうか。……20 年ほど前、総務課山口六平太が連載開始になった。自動車会社の総務課の話で、総務課というのは報われること少ない仕事である。この六平太というのが非凡な男で、次々に発生する難問をその奇才によって解決していく物語である。よくまあ 20 年も続いたものだ。

その六平太（ロッペイタ）が、高給にさそわれ転職した男の話に付き合う。その男の台詞であるが、

「利益のためなら多少の悪に目をつぶってもいいと思う**会社**は、大きな悪にも鈍感になる。いつの間にか不正が日常になる。それは結局、そこの人間を駄目にする。そうなりや**会社**も駄目になる。……まっとうな人間がまっとうな仕事をしてまっとうに生活できなきゃ、まっとうな国じゃないよ。(中略) おれは自分で小さな**会社**をやろうと思う。地道に、まっとうにな。」

いかがです。上の「**会社**」をひっくり返して読んでみてください。いま、民社党の菅や小や鳩のために日本は亡国の一途をたどっていると言っても過言ではないだろう。……そもそも「**国家戦略**」というのは首相の頭の中にあるもので、わざわざ**国家戦略室**を作った経緯を考えれば、これをほとんど消滅させるような愚挙に出るはずがない、と考えるのが普通の国民の意志ではないだろうか。政治家が自分さえ良ければと考えるなら何をか言わんや。**国家戦略なき国家**はいずれ亡国に到る。歴史が証明しているではないか！

2010. 10. 01.